

思い出いっぱいのランドセルに”ありがとう”を込めて贈る加工システムの構築 株式会社Askalカバン工房

高性能機器の活用で製品の品質・顧客対応力向上、 高付加価値化で収益力拡大へ

高付加価値製品で成長へ

Askalカバン工房は、革製品の製造、販売を手がける一宮市の企業。革小物事業のほか、平成29年からは現在の主力事業となる、使用後のランドセルのリメイク事業を開始した。小さなランドセル型キーホルダーへのリメイクが主流だったが、同社はランドセルの革を用いたパスケースや財布といった日用品を製作し、差別化を図った。コロナ禍では卒業式が中止になった子供のために思い出を残したいという家族からの引き合いも高まり、会員制交流サイト（SNS）を通じて同社の認知度も向上した。

電子商取引（EC）サイトでの販売などを通じて、現在では年間2万個ものランドセルのリメイクを手がけている。販路の拡大や一層の収益力向上を模索する中、近年では百貨店での販売も拡大。その上で、より高付加価値な製品の提供が可能な体制づくりが求められていた。



ランドセルからリメイクした革小物

縫製、刻印工程高度化へ

こうした中、リメイク技術の高度化に向けて検討したのが、高い加工技術を実現する機械の導入だ。導入先の一つが縫製工程。ランドセルから切り出した革のパーツを重ねて縫製する際は、縫い始めの部分で革を固定する必要がある。従来使っていたミシンでは、厚さの異なる部分で押さえの強弱調整ができず、縫い目の間隔にばらつきが生じることがあった。使用頻度によっては、早期に糸のほつれにつながりかね

ないという課題もあった。

もう一つが刻印の工程。従来はスタッフの手作業によって対応していた。それゆえにばらつきが生じるほか、特別感をもった製品を手にしたという顧客の要望も高まっており、従来のアルファベットのみの刻印から、より緻密でバリエーション豊かな刻印が施せる加工技術が求められていた。そこで、「令和元年度・2年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」を活用し、高性能ミシンとレーザー加工機の導入に至った。



分解したランドセルからパーツを切り出す

機器の投入で品質向上

高性能ミシンの活用では、素材を縫い合わせる際に厚さが変化しても、目詰まりを起こさず、安定した縫製が可能になった。縫い目の間隔が均一になることで、製品の強度向上も見込める。また革を固定し縫製する際に、製品の表面に押さえの跡が残るといった審美性の問題も、新たなミシンの導入により解決した。

加工素材にレーザーを照射することで加工を施すレーザー加工機を採用したことで、自身の名前や好きな言葉、任意のメッセージなど、より細かな要望を実現する印字が可能になった。また同社では紫外線（UV）の照射によってインクを硬化させる機能を有するUVプリンターの導入も自前で実施。これにより、多種多様な素材に対して、顧客が求める加工が施せるようになった。製品の高付加価値化で、顧客満足度の向上や、一層の収益力拡大が期待される。



さまざまなフォントを刻印できるレーザー加工機を導入

人材育成、デジタルで飛躍



高品質、審美性を実現する高性能マシン

効率化や、本事業で導入した機械の活用により付加価値を高め、さらなる成長を誓う。

リメイクするランドセルは、使い込んだ人の思いが詰まった個性的な素材のため、一品一様の対応が必要となる。それだけに工業製品とは異なり、生産規模の拡大は一朝一夕には実現できない。一時、協力工場の活用も検討したが、品質が伴わず、自社での社員育成に専念することにしたという。現在、製作に携わる社員は全員が女性。「消費者と同年代で消費者のニーズをくみとれる」（大橋泰助社長）点が強みだ。社員の希望に柔軟に応える働きやすい環境も整備し、人材の定着にもつなげている。近年、ランドセルリメイク事業に進出する企業が増加傾向にある。デジタル技術を活用した生産現場の

企業データ

会社名	株式会社Askalカバン工房(あすかるかばんこうぼう)
代表者役職名・氏名	代表取締役 大橋泰助
設立年月日	平成26年5月20日
住 所	〒494-0012 愛知県一宮市明地字西七丁原32の1
電 話	0586-58-4531
FAX	0586-22-9166
URL	https://askal.jp/
E-Mail	kabanaskal@wh.commufa.jp
資本金	50万円
従業員数	25人
業 種	なめし革・同製品・毛皮製造業



品質と価格で顧客に応えていきたいと語る大橋泰助社長